

台風第2号及びそれに伴う前線の活発化による大雨の概況と国土強靱化の効果

令和5年6月19日11時点
※数字は速報値

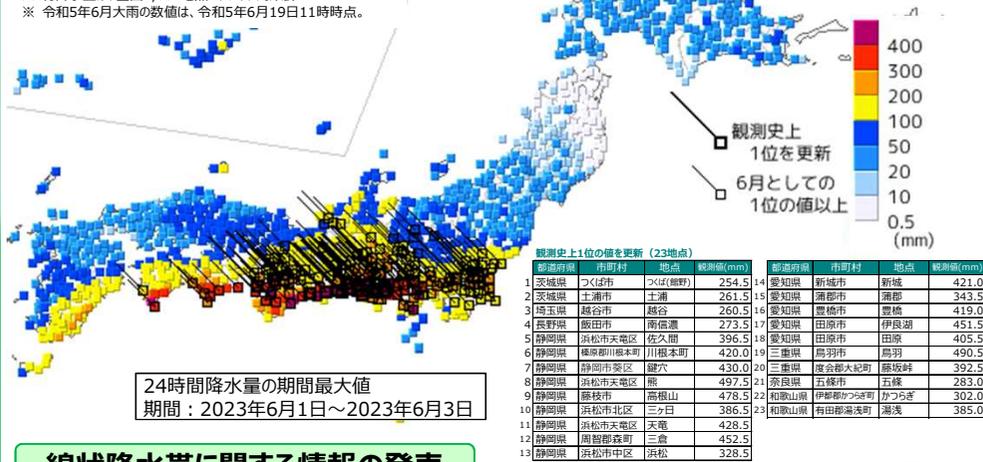
- 台風第2号の影響で梅雨前線の活動が活発となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県、静岡県 の6県で線状降水帯が発生し、23か箇所の雨量観測所で観測史上1位を記録。
- 国管理河川、都道府県管理河川あわせて44河川で氾濫や埼玉県越谷市などでの内水氾濫等により、全国で約8,900戸の浸水被害が発生。また、静岡県浜松市をはじめ、各地で308件の土砂災害が発生。
- ダムの事前放流、3か年緊急対策等による河道掘削等を実施した結果、近年の水害と比べ、氾濫等発生河川数等は少なかった。
- 一方、70を超える河川で氾濫危険水位を超過しており、気候変動による降雨量の増大に備えた国土強靱化関連の対策を進める必要。

令和5年6月の大雨の状況

【近年発生した大雨等と令和5年6月の大雨の比較】

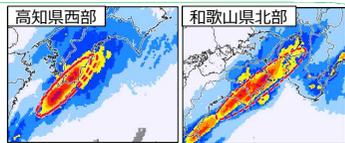
		平成30年7月 西日本豪雨	令和元年 東日本台風	令和4年8月3日 からの大雨	令和4年9月 台風第15号	令和5年6月 大雨
全国の アメダス 総降水量	期間 (日数)	6/28~7/8 (11日間)	10/10~10/13 (4日間)	8/1~8/14 (14日間)	9/22~9/24 (3日間)	6/1~6/3 (3日間)
	総和 全国	約24.6万mm	約10.2万mm	約11.3万mm	約4.6万mm	約9.1万mm
72時間降水量		123地点	53地点	37地点	0地点	11地点
24時間降水量		77地点	103地点	31地点	6地点	23地点
12時間降水量		49地点	120地点	35地点	7地点	16地点
氾濫等発生河川数		315河川	330河川	156河川	24河川	44河川
土砂災害発生件数		2,581件	952件	206件	33件	308件

※ 総降水量は、全国1,032地点のアメダスで集計
※ 令和5年6月大雨の数値は、令和5年6月19日11時点。



線状降水帯に関する情報の発表

- 線状降水帯が発生した6県において、以下の情報を発表
 - ・ 線状降水帯による大雨の可能性を半日程度前から呼びかけ (R4.6開始)
 - ・ 線状降水帯の発生を、予測技術を活用し、最大30分前に発表 (R5.5開始)



河川整備の効果

令和5年6月の大雨と
過去に大規模な浸水被害をもたらした同規模の降雨による浸水戸数の比較

① 巴川水系巴川	【S49.7七夕豪雨】26,156戸 → 【R5.6大雨】114戸 (約99%減)
② 庄内川水系土岐川	【H23.9洪水】622戸 → 【R5.6大雨】2戸 (約99%減)
③ 大和川水系大和川	【H29.10洪水】258戸 → 【R5.6大雨】43戸 (約83%減)
④ 紀の川水系和田川	【H24.6洪水】116戸 → 【R5.6大雨】0戸 (100%減)
⑤ 那賀川水系桑野川	【H10.5洪水】126戸 → 【R5.6大雨】0戸 (100%減)

※ 今回出水の浸水戸数は市町村からの届取。
※ 速報値のため、今後の調査等により変更する可能性がある。
※ ②については、多治見市における被害



各地方での対策量	(参考) 全国
中部地方 約592万m ³ の河道掘削を実施 (ダンプトラック約120万台)	約7,840万m ³
近畿地方 約1,053万m ³ の河道掘削を実施 (ダンプトラック約210万台)	
四国地方 約560万m ³ の河道掘削を実施 (ダンプトラック約110万台)	
合計 約2,200万m ³ (ダンプトラック約440万台)	

3か年緊急対策、5か年加速化対策等による河道掘削量(H30~R3)

対策前 対策後
大和川

ダムの洪水調節のための容量確保 (事前放流)

事前放流したダムでの確保容量 (国交省所管ダム+利水ダム)	令和5年6月大雨
・55ダム 【多目的ダム29ダム、利水ダム26ダム】	事前放流実施ダム位置図
・約1.5億m ³ 【ハツ場ダム約1.7億分】	

上記に加え、既に確保していた事前放流の容量約4.7億m³
(61ダム)【ハツ場ダム約5億分】

野村ダム事前放流状況 (国交省管理ダム(愛媛) 肱川水系肱川)

ひじわ びじわ

「効果事例」
肱川水系野村ダムと鹿野川ダムにおいて、事前放流により約250万m³の容量を確保し、最大で毎秒約500m³/sの洪水を貯留したことで、下流水位を約1m低下。

土砂災害対策の効果

○ 線状降水帯が発生した6県において、239件の土砂災害が発生したが、3か年緊急対策や5か年加速化対策等により整備が行われた385箇所では被害は確認されていない。

5か年加速化対策による急傾斜地崩壊防止施設の整備



事前防災対策の必要性

- 全国で70を超える河川において、氾濫危険水位を超過するも氾濫はギリギリで回避。
- 気候変動によって気温が2℃上昇した場合、降雨量が約1.1倍になると予測されているなど、今後更なる事前防災対策の強化が必要。

氾濫危険水位を超過した河川 (令和5年6月大雨)

国管理6水系7河川	【関東】中川、綾瀬川 【中部】豊川放水路、黄瀬川、庄内川 【近畿】大和川 【四国】桑野川
都府県管理42水系69河川 ※複数県に跨がる河川は1河川として計上	【関東】茨城県(2)、埼玉県(3)、千葉県(3)、東京都(7)、神奈川県(5) 【中部】長野県(1)、静岡県(15)、愛知県(6)、岐阜県(2)、三重県(2) 【近畿】大阪府(6)、兵庫県(1)、奈良県(7)、和歌山県(12) ※ () は河川数

氾濫は約1.5倍回避 氾濫は約1.5倍回避

黄瀬川 綾瀬川

野村川水系黄瀬川の状況 利根川水系綾瀬川の状況